

花鳥風月・短歌

災害はいつ起きるかはわからない

それでもなぜに正月なのか

徳永 誠一

またおいで帰省し帰る孫の手に

そつと手渡す故郷の香り

佐伯 定則

貴重品身近においてすぐ取れる

小さい心大きな安心

一色 ノブ

座り込み草引く曾祖母遅しい

鏡開きの朝のできごと

小林 泰子

ほのかなる七草粥の優しさよ

手に一度の旨きやすらぎ

石井 トシ子

倖せを奪いし地震恐ろしき

自然の摂理なす術もなし

塗 堀 良子